

西郷村行政評価

平成30年度 外部評価報告書

平成30年11月

西郷村行政改革推進委員会

目次

1. はじめに.....	2
2. 行政改革推進委員名簿（外部評価）	3
3. 平成29年度外部評価の概要.....	4
(1) 行政改革推進委員会（外部評価）の開催経過	4
(2) 外部評価の視点.....	4
(3) 評価対象の選定.....	5
外部評価結果	6
(1) 施策の個別評価結果.....	6
(2) 全体的な意見について.....	15
今後の行政評価のあり方（課題等）について	17
(1) 選定方法及び審議の流れについて.....	17
(2) ヒアリング時の担当課の対応について	17
(3) 外部評価実施に対する全体的な意見・感想について	17
(4) その他	18

1. はじめに

西郷村では、平成29年度からの10年間を計画期間とした「第四次総合振興計画」を定め、『人と自然が輝き笑顔を未来へつなぐ「さわやか高原公園都市」にしごう』を将来像とした政策・施策体系が構築されました。

第四次総合振興計画の進行管理においては、個別の事務事業を中心とした事務事業評価から、「施策が効率的・効果的なのか」、「事務事業が適切なのか」を評価する施策評価を導入し、行政評価制度が構築されたところであります。

第四次総合振興計画初年度である平成29年度は施策の内部評価を試行的に行い、今年度から第三者の視点からの評価及び意見を聴取することにより、施策評価の客観性と透明性を高めることを目的に外部評価が初めて導入されました。

外部評価の方法は各自治体で様々であり、村としては初めての取り組みであったことから、試行錯誤を重ねながら検討を進めるものとなりました。各委員の専門性や経験、見識等を踏まえながら、積極的な議論を重ね、更には施策を評価するにあたっては、担当課からの説明や質疑応答を実施し、効果性や必要性、公平性等を中心に評価及び検証を進めてきました。

本報告書は、平成29年度の施策評価について本委員会が、行政評価の目的である「事務事業の改善」「行政の説明責任の向上」「職員の意識改革」を達成するための議論の結果をまとめたものであります。

評価の過程で、資料提出やヒアリングに対応していただいた事務担当者をはじめ事務局である企画財政課担当者の方々に委員一同感謝申し上げますとともに、村民の幸福と村の発展のため、この内容を真摯に受け止め、施策展開や事務事業等の見直しに活用する中で、常に村民の立場に立ち、村政運営に尽力することを期待するものであります。

平成30年11月 委員一同

2. 行政改革推進委員名簿（外部評価）

任期 自：平成29年12月 1日

至：平成31年11月30日

役 職	委 員 氏 名	所 属 等	備 考
会 長	藤原 一哉	福島大学経済経営学類 教授	
副会長	花安 紀夫	西郷村行政区長会 会長	
委員	居川 孝男	東北税理士会白河支部 監事	
委員	金田 裕二	西郷村農業委員会 会長	
委員	村田 清	西郷村教育委員会 教育委員	
委員	遠藤 玉美	西郷村婦人会連絡協議会 会長	
委員	菊地 幹雄	西郷村商工会 理事	
委員	大越 則恵	西郷村環境審議会 副会長	
委員	西坂 雄冶	社会福祉法人西郷村社会福祉協議会 会長	

3. 平成29年度外部評価の概要

(1) 行政改革推進委員会（外部評価）の開催経過

会議	開催日	内容
第1回	平成30年7月6日（金）	・行政評価の進め方について ・外部評価対象事業の選定について ・その他
第2回	平成30年8月22日（水）	・外部評価方法について ・外部評価（ヒアリング形式） ・外部評価報告書について ・その他
第3回	平成30年10月4日（木）	・外部評価結果について ・外部評価報告書について ・その他
第4回	平成30年11月15日（木）	・外部評価報告について ・その他

(2) 外部評価の視点

外部評価は、施策目標の達成度、課題認識、総合評価を視点として、以下の項目について外部評価結果としてまとめることとしました。

① 施策の指標及び目標値の妥当性

各施策における指標、目標値の妥当性を検証する。

② 進捗状況

内部評価の妥当性を検証することを基本とし、それを踏まえて施策の進捗状況を次の4段階の区分で評価する。

評価区分
A：計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B：ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C：目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D：目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

③ 提言等

施策とそれを構成する事業の関連性について、進捗管理の視点からは一歩踏み込んだ形で、「必要なのか」「有効なのか」などの視点から意見を内部評価の指摘事項等及び提言等として取りまとめる。

(3) 評価対象の選定

評価対象の選定については、本委員会で全ての評価を行うことが困難であること、各種指標や内部・外部評価の進め方についても、検討の必要があることなどから、第四次総合振興計画に掲げる8つの基本目標からそれぞれ1基本施策を外部評価委員会において抽出し、8施策を対象に実施することとしました。

今年度は、基本目標3から2つの基本施策を選定したため9施策を対象としています。

No	基本目標	分野	コード	基本施策名	担当課名
1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり	子ども・子育て・少子化対策	1-3	子育て支援の充実	福祉課 学校教育課
2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり	教育・文化・スポーツ	2-3	教育環境の整備	学校教育課 生涯学習課
3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり	産業・観光・交流	3-1	農林業の振興	農政課 農業委員会事務局
			3-3	観光・交流の活性化	商工観光課 企画財政課
4	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり	都市基盤	4-1	道路・公共交通の整備	建設課 企画財政課
5	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり	保健・医療・福祉	5-3	高齢者福祉の充実	健康推進課 生涯学習課
6	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり	環境保全	6-2	資源循環型社会の推進	住民生活課
7	安全が守られ、災害に強いむらづくり	防災・防犯	7-1	防災対策・消防体制の充実	総務課 企画財政課
8	共に考え、協働するむらづくり	行財政運営	8-2	持続可能なむらづくりの推進	企画財政課 総務課

外部評価結果

(1) 施策の個別評価結果

基本目標	1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり
基本施策	1-3	子育て支援の充実
主担当課名	福祉課	
関連課名	企画財政課、学校教育課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いの場創出事業におけるカップル成立数であるが、村の事業として実施しているため、結婚成立率や結婚後村への定住数などを指標とする必要がある。 ・ 児童クラブ入会児童数を指標としているが、それに併せ児童クラブ支援員の適正配置数も指標とする必要がある。 ・ 子ども・子育て支援センターの設置を目標としているが、設置後は利用者数、相談者数等を指標とすることが必要である。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかし、個別施策によって内部評価「C」があり見直しの検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いの場創出事業は、事業内容の検討が必要。 	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点は見直しを図ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護児童対策事業を児童虐待防止の視点から重要であると考えますが、実際は機能しておらず、児童虐待防止対策事業の内部評価「A」は見直しが必要である。 	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・子育て支援センターの早期設置を要望する。 ・ 時代の変化に対応し、子どもの貧困、ひとり親家庭、虐待、いじめ、不登校など、福祉課と学校教育課等が総合的に施策を講ずる必要がある。特に専門職の活用と関係機関の連携強化を図られたい。 	

基本目標	2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり
基本施策	2-3	教育環境の整備
主担当課名	学校教育課	
関連課名	生涯学習課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の「質」に関する評価がわかりにくい。また、情報化や国際化への対応を指標とする施策が必要である。 ・現状や課題の分析は適当であるが、そのことが施策や指標に反映されていない。 ・「教職員資質の向上」に自主的な研究会・研修会参加回数を指標に加えるべきである。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかし、個別施策によって内部評価「C」があり見直しの検討が必要である。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備の「学校給食センター」については早急に実現を要望する。 	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・川谷小中学校、羽太小学校の児童・生徒数が年々減少しているため、学校の将来を見据えた今後の展望について、すべての子どもたちのためにとの視点に立ちながら、児童生徒への教育効果や社会性の育成を大前提として、通学距離や時間、児童生徒への負担、学校運営のあり方、教職員定数の問題など様々な要素を勘案し、今後どの様な姿が望ましいのか、村民の意見を反映しながら検討をしていただきたい。 ・川谷、羽太地区の人口を増やすための定住対策や交流人口対策等も検討すべきである。 ・教職員質の向上のためにも職員多忙化の是正を図って欲しい。職員の多忙化は、膨大な書類づくりが原因とも言われているので、人員配置等も含め村全体の課題として取り組んでいただきたい。 	

基本目標	3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり
基本施策	3-1	農林業の振興
主担当課名	農政課	
関連課名	農業委員会事務局	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まるごと西郷館」がオープンしたため直売所販売金額の目標値を見直す必要がある。 ・地産地消を目指す、有機農業育成の指標を設定すべきである。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかし、個別施策によって内部評価「C」があり見直しの検討が必要である。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の高齢化に伴う担い手の確保や新規就農者確保が進んでいないと感じる。「まるごと西郷館」を活用した効果的な施策が必要である。 ・定住対策、空き家対策、少子化対策としても、村外から就農者希望者の呼び込み、外国人農業実習生の受入等を検討していただきたい。 ・村ならではの魅力ある特産品、6次化製品等の開発を奨励する施策を検討していただきたい。 ・有害鳥獣被害対策、松くい虫対策、多面的機能支払交付金事業の更なる拡充・支援を要望する。 	

基本目標	3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり
基本施策	3-3	観光・交流の活性化
主担当課名	商工観光課	
関連課名	企画財政課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿の誘致目標が低い。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかし、個別施策によって内部評価「C」があり見直しの検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成していない指標は、様々な要因が考えられるが、早急に分析し対応が必要である。 	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点は見直しを図ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住定住促進事業及びサイクルツーリズムについて、情報発信・PR後の成果指標（どの程度の効果があったのか）が必要。 ・C評価の事業について早急に見直しが必要。（改善策を次年度に反映） 	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にインバウンドを推進している中で外国語の観光パンフレットも必要であり、また、村内の企業等で研修等をしている外国人を活用し、SNS等で海外に村の魅力を発信する事業を実施していただきたい。 ・着地型観光は、川谷地区を中心に始まっているようだが、様々なタイプの着地型観光を模索すべきである。 ・遊歩道を含む観光地でのトイレ、駐車場の整備。民間等施設も含めた遊休施設の再利用等を検討していただきたい。 ・課の横軸連携により、空き家対策、農業担い手育成、就労支援、村の衣食住の充実をPRするなど、若者の移住・定住を図るような施策の検討が必要である。 	

基本目標	4	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり
基本施策	4-1	道路・公共交通の整備
主担当課名	建設課	
関連課名	企画財政課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。 しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通対策のむらづくり指標は、高齢社会に対応した公共交通対策の強化による利便性向上を目指した指標など、バス利用者数以外にも設定が必要である。 ・道路の整備について、歩道整備延長だけでなく通学路の安全を図る指標が必要である。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通等、交通弱者対策の早期実現を要望する。 ・通学路における自転車歩道専用道路（規定の幅員）を要望する。 ・メイン道路にネーミングを付ける検討をしていただきたい。 	

基本目標	5	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり
基本施策	5-3	高齢者福祉の充実
主担当課名	健康推進課	
関連課名	生涯学習課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点は見直し・検討を図ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見人制度等権利を守る制度の充実と障がい者分野等の連携が必要である。 ・様々な事業のモニタリング、アセスメント実施が不十分である。 ・老人温泉利用助成事業は実績が7枚しかないが、評価Aである。必要性、公平性、緊急性勘案しているのか。次年度以降見直し検討が必要である。 ・敬老会のあり方について「敬老事業検討委員会」にて事業の見直しを検討しているが、国保係、介護保険係、生涯学習課等の連携を図るべきである。 	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会の見直し、出席率の向上を図られたい。 ・敬老会記念品は取りやめ、祝い金等を商工会商品券等に変える検討をしていただきたい。 ・地域福祉計画を策定し、高齢者、障がい者、児童など総合的・一体的な福祉の推進を図るため、外部専門家を加えた地域福祉会議を創設していただきたい。 ・地域包括支援センターの充実や介護サービス利用をためらう方に適切な情報の提供を図られたい。 	

基本目標	6	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり
基本施策	6-2	資源循環型社会の推進
主担当課名	住民生活課	
関連課名		
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標の項目が少なすぎる。住民の参加率、企業の取り組みなど項目を加えること。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。しかしながら、次の点は要因等を分析し検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ総排出量、リサイクル率ともに悪化している。
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等		<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源循環型社会の推進をより広い視野から検討して欲しい。
提言等		<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題はエネルギー、水資源、大気、河川等広範囲にわたる課題であり、他部局との連携強化を図りたい。 ・ゴミの分別や下水道の役割等周知徹底を図り、リサイクル率向上や下水道接続率向上を図って欲しい。 ・阿武隈川源流、那須山系の麓に位置している村なので、地球温暖化を含めもっと環境教育を実施してはどうか。 ・他自治体でも実施しているようであるが、家庭から出る生ゴミの減量化、堆肥化を推進するため、電動式生ゴミ処理機やコンポスト容器などの購入費の一部を補助する取り組みが必要ではないか。

基本目標	7	安全が守られ、災害に強いむらづくり
基本施策	7-1	防災対策・消防体制の充実
主担当課名	総務課	
関連課名	企画財政課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標へ洪水、水害等の情報伝達率を加えるべきである。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	<p>●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線の維持管理費に 500 万円近い予算が使われているが費用対効果を検証するべき。 	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線の早期デジタル化（携帯電話等の活用等）を要望する。 ・防災拠点として庁舎の早期着工を要望する。 ・住民の防災意識向上を図る施策や避難に関する情報の発信強化が必要である。 	

基本目標	8	共に考え、協働するむらづくり
基本施策	8-2	持続可能なむらづくりの推進
主担当課名	企画財政課	
関連課名	総務課	
①施策の指標及び目標値の妥当性		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。 しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税の指標も加えるべきである。 ・財政指標以外の指標も加えるべきである。 ・経常収支比率が85%の目標は妥当なのか。 		
②進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	●施策の進捗としては概ね「B」と判断する。	
③外部評価からの提言等		
内部評価への指摘事項等	●内部評価は概ね適正に実施されていると判断する。	
提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・村の財政状況について、広報誌等を使い村民に対しわかりやすい説明を行い、その上で受益者負担等の必要性を理解できるような工夫をしていただきたい。 ・公共施設の老朽化について、実情をわかりやすく説明する必要がある。 	

(2) 全体的な意見について

○職員の評価に取り組む姿勢について（内部評価含む）

施策評価の目的は、行政評価を通じて「総合振興計画の施策体系の中で果たすべき役割を認識しながら、各事業の目的、成果、課題、コストを意識し、村民目線に立って、事業の見直し、事務の改善に取り組み、効果的かつ効率的な行政運営に取り組むこと」である。

今回、外部評価を実施した結果、下記のとおり課題等が挙げられているので、改善を図りたい。

- ・個別施策の指標が適切に設定されていないので修正すること。
- ・個別事業の内部評価について C 評価をしたものが、全体評価で A、B 評価となるのは見直すこと。
- ・次年度はヒアリング時間の検討とヒアリング時に各課を横断した取り組み等の意見等も委員から提案されているため各課の出席を要望する。
- ・外部評価を行うには、施策の方向、成果指標、構成事務事業の妥当性などの判断や事務事業の内容等を十分に理解することが必要となる。

そのため次年度からは、委員会として適正な評価が行えるよう、対象となる施策については、事務局において構成事務事業等を踏まえ、適切な事業及び施策を設定されたい。

○施策評価シート及び個別評価シート等について

施策評価シート及び個別評価シートの記載に当たっては、施策を評価する、総合振興計画の進行管理を行うという目的に沿った評価をするとともに、村民の目線に立ち具体的でわかりやすい記述並びに様式に心がけること。

委員会は、ヒアリングを通して内容の詳細を把握し、シートの不透明な点について確認することが出来るが、村民は公表されるものだけを見ることになるので、今後も下記の点に留意しながら評価シートを作成すること。

- ・目標実現に向け、どのような方法で事業を実施していくのか、できるだけ具体的な言葉を用いて、村民目線に立ったシート作成を心がけること。
- ・総合評価がなぜその評価になったのかについて、全体総括の中で読み取れるよう記載すること。

○むらづくり指標、個別施策の指標・目標について

設定された指標の妥当性及び達成度を検証するという作業は、この行政評価の根幹を成すものである。村の現状と課題を施策や事業を展開することでどの様な状態にしたいのか達成度合いが村民に伝わるような指標を設定する必要があるため、今後下記の点に留意し改善を図られたい。

- ・個別評価シートの活動指標、成果指標に空欄が多い。何を目標に事業を実施しているの

か村民が理解できるように記載すること。

○外部評価の反映について

今回の行政評価では、大枠でみた施策の評価になっていたため、具体的な個別事業について、評価を反映することは難しいと思うが、下記の点に留意し次年度の予算に反映すること。

- ・経常的な施策以外で事業費、施策が例年どおりとなっている項目が多い。評価に基づきメリハリをつけた事業計画、予算措置が必要である。

今後の行政評価のあり方（課題等）について

（１）選定方法及び審議の流れについて

この外部評価は、村の職員の方々による自らの事務事業に対する自己評価を基礎資料として行いました。日々の行政の確実な執行とともに自己評価に取り組んでいただいたことに委員一同改めて感謝申し上げます。従来の PDCA サイクルの最後に位置付けられ、次年度の予算に反映されるべき決算審議や監査もありつつ、今回初めて開始された外部評価が実り多いものとなるように、ここで若干の見解を明らかにしておきます。

今回の外部評価の対象施策は、本報告書の 4 ページにあるように村の総合振興計画の 8 つの目標の中から本委員会の最初の会議で決定しました。振興計画が 10 か年にわたり、前期 5 年分の基本施策表を基礎資料としたので、今回外部評価できなかった施策は次年度以降の外部評価に委ねられる事となりました。ただ、すべての基本施策には表れない部分、例えば村が支出している補助金や助成金さらには公営企業会計への繰出金などは、自己評価や外部評価の対象になっていません。これらについては、決算審議や監査などでその妥当性などが明らかにされることを期待します。

（２）ヒアリング時の担当課の対応について

ヒアリングの時にも「直接関係ない課からもだれか同席して、仕事の横軸連携と情報共有が図れるようにしていただきたい。」という要望が委員から出ました。事前に委員からヒアリングしたい質問や意見が出され、ヒアリングまでに担当課からそれに対する回答をいただき、ヒアリングではこの回答に関してさらに聞くという形式でした。各委員の専門や日頃の問題関心に沿った個別具体的な質疑応答ができたと思います。

このヒアリングの記録も次年度以降の外部評価の参考にしていただきたい。ヒアリング時間については 9 つの基本施策を順番に行ったので、1 つ当たりの時間が不足したという意見も出ました。

（３）外部評価実施に対する全体的な意見・感想について

総合振興計画を達成する事務事業であるかは、日々の行政において職員各位が自覚的に取り組んでいただいていることが大前提であり、この前提の下で自己評価が行われているとしたら、外部評価の対象も自己評価の中から明らかとなると予想されるでしょう。

また、行政の主人公が村民や住民であるとしたら、彼らの声や隠れた要望が外部評価の焦点を明らかにすることが期待されるでしょう。外部評価委員に求められることは、外部評価対象施策の選定において上記のような行政の担い手（サービスの受益者と提供者）の真摯な声に敏感に対応することだと思います。

外部評価の実施は、自己評価シートと担当課に対する質問と質問に対する回答を基にしたヒアリングでした。1 年目の外部評価としては精いっぱい作業であったと思います。時間の制約があるので、ヒアリング時に聞きたいことをもう少し具体的に絞れる部分もあったと思われます。これは次年度以降の課題にします。

外部評価が、行政の効率的改善につながることを期待されていますが、事業の廃止がもたらす地域的な影響もあるので、関係者や議会などでの丁寧な議論が求められると思います。ただ、従来行政の弊害と指摘されてきた「縦割り行政」に由来するような非効率性は、自己評価と外部評価が行政の循環（サイクル）として定着していけば、自ずと過去のものとなることを期待します。

（４）その他

外部評価委員の選定にあたっては、少子化が大きな課題となっているので、子育て世代からも委員を選ぶべきであると思われます。その意味で各課の事務事業に対応するような世代や関係者の委員も必要でしょう。その場合、自らの利益のみに固執するのではなく、村の将来を見据えた評価が重要となるでしょうが、この課題は、民主主義の永遠のテーマであり、腰の据わった外部評価が今後も継続されることが一つの挑戦となることを期待します。

西郷村行政改革推進委員会